

Weekly コラム

令和 2 年 8 月 25 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

蝉（セミ）

梅雨明けの便りもそろそろ聞かれる季節になり、蝉の鳴き声も日に日に大合唱になってきました。この声を耳にすると、夏がやって来た事を毎年実感しています。

日本では、夏にはお馴染みの昆虫である蝉ですが、世界中では約 300 種確認されており、日本ではその内の約 30 種が生息しています。代表的なものは皆さんよくご存じの、ヒグラシ、アブラゼミ、ツクツボウシ、ミンミンゼミ、ニイニゼミ、クマゼミ等があります。

特徴のある蝉の鳴き声ですが、実際は鳴いているのではなく、雄の腹の内側にある発音筋と発音膜を使い、共鳴室と腹弁を経て（腹の内側のオレンジ色の部分）秒間 2 万回も振動させて音を出しています。

鳴く時間帯は、蝉の種類によって多少異なります。最近蝉の合唱を聞いていて感じたのですが、昔、（40 年程前）私が小学生の頃と比べると、現在の蝉の声が変わっています。その頃は、高い声で鳴く小型のニイニゼミやアブラゼミが主流で、どちらかと言うと朝から昼間の明るい間、夕方にかけてずっと声が聞こえていたように思います。しかし、最近では朝夕にだけ、シャーシャーと大きな声で鳴く、クマゼミがほとんどで、ニイニゼミの鳴き声は、ほとんど聞かれなくなりました。多くの蝉は、薄暗い早朝、もしくは夕方、比較的湿度の高い時間帯がお好みらしいのですが、ニイニゼミやアブラゼミに限っては、お昼頃でもわりと良く鳴くそうです。クマゼミは、朝夕の時間帯が特にお好みらしく、真っ昼間は鳴くことが少なく

なります。最近特に朝夕の大合唱が増えたのは、クマゼミの増加によるものと思われます。本来、クマゼミはもっと西側の九州地方や南四国等に多く生息していたのですが、ここ最近の温暖化によって、生息域がだんだん北上し、近頃では関西、東海、北陸地方でも多く見られるようになってきました。ニイニゼミがだんだん少なくなり、クマゼミが主流になりつつあります。そのため、大合唱の時間帯が朝夕に集中しているようです。

先ほど蝉が鳴くのは雄だけと書きましたが、鳴くという行為は子孫繁栄の求愛行為なのだそうです。種類によって長短はありますが、雄雌とも短くて 3 年、長くても 17 年もの間、土の中で幼虫として過ごし、日本では、6 月から 10 月頃にかけて地上に出てきて成虫になり、その後 1~2 週間の間しか生きられません。その短い間に自分たちの子孫を残さなければならないのです。とにかく大きな声で鳴く雄には、多くの雌が寄ってくる事が統計からも解っています。自分の子孫を残すため、雄はより大きな声で雌にアピールする事は必須条件なのでしょう。

蝉時雨という言葉がありますが、これは夏の季語で、文字通り多くの蝉が一斉に鳴いている音が時雨（雨が一斉に降ったり止んだりする時の音）に例えられています。どちらかと言うとうるさい蝉の合唱も、時雨と思って聞いてみればなかなか風流です。また、蝉の事を色々調べて分かったことで、短い成虫の時間に一生懸命鳴いている雄の気持ちも何となく理解でき、普段は暑苦しく思えてしまう蝉の声も、つい『頑張れ！』と応援してしまうようになりました。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。